

お早う「ございます」

2022.11.7 校長 西谷 秀幸

先週の月曜日に、「市川海老蔵さんが、13代目の市川團十郎になった」というニュースがありました。市川團十郎というのは、今から360年くらい前の江戸時代に歌舞伎の世界で大スターになった人です。6年生は、社会科の歴史で学習したでしょうか。

その大スターの名前が代々引き継がれてきて、13代目の市川團十郎になったということです。

さて、先程、6年生が「おはようございます」と朝の挨拶をしましたね。校長先生も毎朝、校門で「おはようございます」と挨拶をしています。

でも、ちょっと考えてみてください。お昼になると「こんにちは」と挨拶をしますが、「こんにちはございます」とは言いません。夜に「こんばんは」と言いますが、「こんばんはございます」とも言いません。

一体なぜ、「おはよう」にだけ、「ございます」という丁寧な言葉が付くのでしょうか。

それは、「おはようございます」だけが、他とは違って、特別な挨拶だからなのです。

「おはようございます」という挨拶は、先程話した「歌舞伎」から始まったと言われています。「歌舞伎」とは400年くらい前に始まった日本の伝統的なお芝居で、派手な服装とお化粧が特徴です。テレビやYouTubeなどで見たことがある人もいますね。



この歌舞伎の役者さんは、派手なお化粧とか衣装の準備に時間がかかるので、お芝居が始まる時刻より、かなり早く芝居小屋にやってきました。

そのとき、芝居小屋で働いている「楽屋番（がくやばん）」という裏方の人たちが、役者さんたちに対して、いつも「お早うございますね」と声を掛けていたのです。これは「本番が始まるまで、まだ時間があるのに、いつも早く来て準備して大変ですね。御苦労様です。」という意味です。

つまり、この「お早うございますね」という言葉は、「挨拶」というよりは、相手を大切にする「思いやり」の気持ちが強く含まれた言葉かけだったのです。そして、この「お早うございますね」が、いつしか「おはようございます」に変化したと言われています。

挨拶には、「こんにちは」とか「さようなら」とか、たくさん種類がありますが、その中でも、特に「おはようございます」という挨拶は、特別な意味をもつ挨拶なのです。

では、どうしたら、「おはようございます」を言うときに、「相手のことを大切にする思いやりの気持ち」を伝えることができるでしょうか。

例えば、先週、6年生の女子が教室の前や階段で「おはようございます」と「明るい笑顔」で挨拶をしてくれたとき、校長先生はとても嬉しい気持ちになりました。他にもどんな挨拶をすれば「相手のことを大切にする思いやりの気持ち」を伝えられるのか、クラスで話し合ってみてください。

ちなみに、「ございます」が付く挨拶は、「おはよう」以外にもあります。他に「ございます」が付くどんな挨拶があるか、これも、ぜひ、クラスで話し合ってみましょう。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先日は、校内研6年生の授業研究、お疲れさまでした。幕末から明治にかけての時期は、都や区の社会科部でも何度か授業化されているのですが、変化の激しかった「20年間」をどう児童に実感させればよいのか…ということは、過去にも課題になっていました。比較の対象になる江戸時代初期や中期の資料（絵）を見せることで、事前授業での課題もクリアし、児童に驚き（問い）をもたせることができたと思います。全体での共有場面も他学年や日常の授業を見合うことでうまく取り入れることができました。最高学年になったときにどのような児童の姿を目指すのか、また一歩研究が深まったと思います。小倉先生、6年担任の先生方、ありがとうございました。ぜひ、下の学年から積み上げられるように、他学年でもできるところから日常の授業に取り入れていきましょう。

さて、毎朝、正門前に立って挨拶をしているのですが、最近、今ひとつ元気がないように思います。約15分間に700名以上の子供たちが成丘小の正門に登校することもあり、自分から挨拶をする子、そして、こちらが挨拶をしても友達と話しながら目の前をスルーする子…と二極化しています。全員に目を合わせることもできないし、自分が挨拶をしなくても他の人が挨拶をしていれば個別に声をかけられることもないからかもしれません。この傾向は、6年前に着任して以降、その年によって多少の違いはあるものの、全体的には変わっていない印象です。しかし、廊下などで個別に合ったときには自分から挨拶をする子も多くいるし、こちらから声をかければ全員が挨拶をしてくれます。このあたりが良くも悪くも成丘小の子供たちの傾向といえます。

「当たり前のこと10か条」のトップにも掲げている挨拶については、定期的に児童朝会で取り上げていますが、話をした直後こそ良くなるものの、なかなか継続できずにいます。朝会では、これからも手を変え、品を変えて話をしたいと思っていますが、ただ「挨拶をしよう」ではなく、挨拶はなぜ必要なのか、どんな意味があるのか、ぜひ趣意説明も含めて伝えていきたいと思っています。各教室でも繰り返し話をしていただければ幸いです。

なお、朝の挨拶「おはよう」に「ございます」が付いていることについては2年に一度くらいのペースで話しています。「ございます」が付く挨拶は、他にも「ありがとう」がありますが、様々な挨拶の中でも、「ございます」が付く「おはようございます」や「ありがとうございます」は特別な存在であることを、子供たちに分かってほしいと思います。「相手のことを大切する思いやりの気持ち」を伝えるための一例として、今回は「明るく笑顔で挨拶」を示しましたが、他にも「元気良く挨拶」「相手の目を見て挨拶」「立ち止まって挨拶」など、いろいろと考えられると思います。ぜひ、各学級で話し合ったり、児童の実態に応じて補足したりしてみてください。

ちなみに、芸能界では、この「おはようございます」を朝以外にも1日のスタートに使っています。これは1日のスタートで相手（お客様）を大事にするという思いを込めて、朝・昼・夜、いつでも使うように、松竹芸能の元社長が提案したのだそうです。

【資料】 挨拶の名言

「挨拶といっても、黙礼だけの挨拶では意味がない。」

ちゃんと顔を上げて、声を出すことが肝心なのだ。」

小出 義雄 [こいで よしお] (マラソン・中長距離選手の指導者)

「私は、しつけとは押しつけだと考えます。挨拶をする、お年寄りを敬う、他人に迷惑をかけないなど、人として生きていく上での原則をしつけるのに、論理的な裏づけが必要でしょうか。」

畑 正憲 [はた まさのり/愛称は「ムツゴロウ」]

(小説家、エッセイスト、ナチュラリスト、動物研究家)

「挨拶」とはなにか？ それは「心を開いて相手に迫る」ということである。

鈴木 健二 [すずき けんじ] (元NHKアナウンサー)